

KBFニュースレター

第5号

NPO法人 九州バイオマスフォーラム

〒869-2237 熊本県阿蘇市的石 1537 TEL 0967-35-1128 FAX 0967-35-1151

http://kbf.sub.jp/ kbf@aso.ne.jp 平成 19 年 10 月 KBF 事務局発行

ご挨拶



例年になく残暑が続きましたが、ようやく秋の気配が色濃くなってきました。会員の皆様におきましては、ますますご健勝のことと存じます。6月に総会を開催してから、あっという間に時間が過ぎてしまいました。総会の報告をはじめ、会報の発行が遅くなりましたこととお詫び申し上げます。

阿蘇市で進めている草エネルギー利用。プラントが稼動し始めてからというもの、たくさんの方が視察に訪れて下さっています。草をしっかりと集めることの責任感を改めて感じています。また、新たに採択された農水省の補助事業では、普及活動に加えて九州一円の連絡協議会を設立・運営することが課せられており、限られた数のスタッフで日夜頑張っているところで

す。活動5年目を迎え、普及活動だけでなく実際のバイオマス利用が始まったことは大きな進歩ではありますが、今後どのようにバイオマス利用を地域に根付いたものにしていくか、試行錯誤を続けているところです。せっかく始まったバイオマスの利用を一過性のプロジェクトにするのではなく、地域の人々とのつながりを深め、長続きする利用となるよう、今後もスタッフ一同努力を続けていきたいと思っております。会員の皆様からもたくさんご意見やご指導を頂けるよう、お願い致します。

吉田 愛梨

事務局からのお知らせ

第4期総会が無事終了しました！

去る6月23日KBFの発足から5年目に当る、第4期の会員総会が、会員41名中24名の出席の下、大津町亀の井ホテルで開催されました。総会は、下記議案について出席会員の方々による審議の結果、全議案とも満場一致で承認いただきました。

第四期総会議案

- 第一号議案 2006年度事業報告並びに決算報告承認の件
- 第二号議案 2007年度事業計画及び収支予算案決定の件
- 第三号議案 役員（監事）改選の件
- 第四号議案 借入金最高限度決定の件
- 第五号議案 定款変更の件



「2007年度は新たに九州バイオマス発見活用促進事業と野草から紙を作るプロジェクトが始まります。」

今年度は、従来の草本系バイオマスのエネルギー利活用実験事業（NEDOからの委託）に加えて、農林水産省の補助事業「九州バイオマス発見・活用促進事業」に取り組むことになりました。さらに地球環境基金や熊本ファミリー銀行の助成金を受けて、地元の小中学校を対象に行う「ススキ」から紙を作る体験学習プロジェクトも取り組んでいます。

KBFは昨年大幅に事務局体制が拡充（1名から5名）されたとは言え、まだまだKBFは小さなNPO法人です。昨年にも増して、目の廻るような忙しい1年となりそうで、一同少し戦々恐々としているところです。

事務所移転のお知らせ

7月2日より本部事務局が赤水からの石（57号線沿いJR市の川駅前、旧JA永水支所）に移転、引越しました。

新住所 〒869-2237 阿蘇市的石 1537 電話・FAX 番号は変わっていません。

監事の方が1名交代されました！

第四期総会で、昨年度より KBF の監事をして頂いた松崎税理士が退任され、(KBF の顧問税理士として引き続き指導頂きます。)、新しく鷲岡嶺照氏(阿蘇市西巖殿寺住職)が監事として就任されました。

*** 九州一円で、バイオマス利活用の気運を盛り上げていきましょう! ***

今年度、農林水産省の補助事業「九州地域バイオマス発見活用促進事業」において、九州バイオマスフォーラムの案が採択されました。九州一円のバイオマスの利活用に対する気運を盛り上げることを目的に、地域における未利用のバイオマスの実地調査と、その利活用に向けた普及・啓発を目指し、まず、協議会を8月23日(木)に開催し、設立趣旨や規約について承認を得、役員等の選出、事業計画の説明を行い、鹿児島大学農学部の守田和夫教授に「バイオマス利用の可能性に向けて」と題して記念講演を開いて頂きました。



この事業は、調査事業と普及・啓発事業に分かれます。調査事業の目的は、「各地に豊富に存在する様々なバイオマスの量とその利用状況を調査し、地域で利用されていないバイオマスの利用の気運を盛り上げる材料とする。」です。具体的には、九州7県(沖縄を除く)の40市町村を対象に、既存の統計資料による調査を行い、その調査結果をもとに、調査員による実地調査を行います。

普及・啓発事業は、「地域のバイオマス利活用の底上げに資する普及・啓発を企画・実行し、より多くの方が地域のバイオマス利活用に取り組むよう気運を盛り上げることが目標で、具体的には下記の企画でバイオマスを盛り上げます。

◆ BDFの利活用をテーマとするキャラバン(10月中旬~11月中旬) ◆

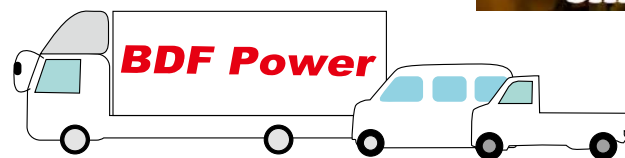
「使用済みてんぷら油でぐるっとキャラバン 九州バイオマス発見の旅」と題し、バイオディーゼル燃料(BDF)で走るトラックに、使用済みてんぷら油から BDF を作る精製装置や、バイオマスプラスチック等のバイオマス関連グッズをのせて、九州一円の町や村に出かけます。

旅の途中では、応募のあった地区で、消費者や農業者等を対象とする研修会(出前講座や BDF カート試乗会等)や同乗ミュージシャン SHIBA&TAKE によるミニライブなど、バイオマスに取り立てて関心なく参加した地域住民でも楽しむことができるイベントを行って、これまで耳にしなかった「バイオマス」という言葉を広く普及させていきます。



あなたの住む町の近くにも立ち寄るかもしれません。ホームページをチェックしてみてください。

<http://kbf.sub.jp/discover/>



◆ テレビ番組放送(12~1月) ◆

10月中旬から11月中旬にかけて実施予定の BDF キャラバンの様子は、同行するテレビ熊本のスタッフが撮影し、番組として制作後に九州一円の FNS 系列で放送してもらえます。その番組を通して、普段何気なくテレビを見ている視聴者(バイオマスを知らない人)に、「バイオマス」という言葉と意味を知ってもらいます。

◆ セミナー・シンポジウムの開催 ◆

企画は現在3つあります。バイオ燃料セミナー in エコテクノ 2007(10月19日)では油藤商事さんの青山さんによる「ガソリンスタンドはまちのエコロジーステーション」と薬師堂さんの「サツマイモからの燃料用エタノール生産」の講演、「い草とススキとヘンプ~草のバイオマス~」 in 熊本(12月15、16日)、「木質系バイオオイル」をテーマとしたバイオマスシンポジウム in 宮崎(2月初旬)です。会員の皆様にも、ぜひ足を運んでいただけたらと思います。キャラバンの状況報告や実地調査の結果などは、KBFのホームページにも随時アップしていきますので、お楽しみに!

<http://kbf.sub.jp/discover/>

*** 野草紙プロジェクトが始まりました！ ***

この野草紙プロジェクトは地球環境基金の助成を受けて平成 19 年度春から徐々に進めている KBF の新しい事業です。

第一回目は環境省とグリーンエコツーリズムセンターが連携した 4 泊 5 日のプログラムにおいて、野草から紙を作る紙漉きワークショップを開催しました。全国から集まってきた社会人と大学生の参加者とスキを混ぜた紙を漉き、草原保全にまつわる 3 コマ漫画のストーリーを考えてもらい、最後は二班に分かれてこの野草紙プロジェクトを小学校に普及させるためにはどうすればよいかを考えてもらいました。



阿蘇の未来を担う子どもたちに阿蘇の草原の成り立ちを知ってもらい、実際にその草原に足を運び、自分たちで実際に刈ってきた野草を使って、卒業証書や文集など小学生時代の思い出がいっぱい詰まった記念になるような紙を作る。その過程を通じて、美しい草原景観が守られてきたこと。紙を作ることの大変さを直に体験し、資源の大切さを知る。

ただ紙を作るだけではない総合的な環境学習の機会を作りたいとの願いに賛同してくれる方々のサポートを得て、現在中通小学校の 6 年生の卒業証書か卒業文集用の紙を漉くワークショップを行っていく予定です。ボランティアスタッフも募集しています。お問い合わせは一の宮事務所の井芹までお願いいたします。

*** 2007 年秋 NEDO 事業の進捗状況 ***

阿蘇市民の方々にも注目されている NEDO の実証実験ですが、夏から秋にかけては、コストを下げるための採草試験を着々と実行しています。三閑牧野では試験的にブッシュカッターによる輪地切りの試験を行ったり、畜産農家が困っているチカラシバの掃除刈りを兼ねた作業機の試験運転など、夏から秋にかけては作業機的能力を測るデータ収集しています。また冬の本番に備えた採草班、運搬班の二班体制で作業に望めるようなチーム編成も構築中です。プラントの方も草ロールだけで連続運転試験を行ったり、少しずつ改良を重ねています。今後の動きにもぜひご注目下さい。



書籍紹介

「野草堆肥利用マニュアル」

野草を使って草原を守りましょう！

前ページの「草原再生シール」の紹介で、「野草堆肥を使うと、作物が格段に美味しくなるのは、なぜ？」と疑問に思われた方にぜひ読んでいただきたい一冊です。この本は、環境省九州地方環境事務所が発行していますが、編集は九州バイオマスフォーラムが行いました。

野草堆肥を使った場合の食味向上のメカニズムや、野草堆肥の利用がどんなふうに草原保全に繋がっているのかが、分かりやすく書いてあります。手元に 1 冊あると便利な冊子です。入手に関するお問い合わせは、九州バイオマスフォーラム事務局までお願いします。



シリーズ循環型社会① 『食べて草原を守ろう！草原再生シールの取り組み』

こんにちは！事務局の佐藤です。今回は、「阿蘇草原再生シール」をご紹介します。

皆さんが阿蘇にお越しの際に農産物直売所に立ち寄られたら、農産品を手にとって、「草原再生シール」を見つけてみてください。

今更ですが、阿蘇の草原は「野焼き」・「放牧」・「採草」など、人の手が入らなければ、低木が生え藪化して、荒れてしまいます。昔から野草を刈り、放牧利用することで、阿蘇の草原は守られてきました。

ところが今、放牧牛も減少し、野草の利用が減ってきています。そこで、草原保全の趣旨に賛同して下さる農家さんで、草原の野草を堆肥やマルチに利用して育てた野菜に、草原再生シールを貼って PR する取り組みが行われています。「草原再生シール」が貼られているということは、栽培過程で草原の野草を使った証です。あなたが、このシールを貼られた農産物を購入することが、阿蘇の草原の保全に繋がります。それに野草堆肥を使って栽培された野菜は、とても美味しいと評判です。一度お試し下さい。KBF一の宮事務所の隣の物産館でも販売しています。



草原再生シール

○ 他にもあるある認証マーク ○

私たちの身近には、循環型社会を目指す、様々な認証マークがあります。

認証マークは、その取り組みを広くアピールする役割と共に、沢山の情報が氾濫する現代の社会の中で、「どれを選べば、本当に循環型社会の構築に寄与できるのか？」の目安になるという意味でも、大切な印です。

バイオマスマーク
(日本有機資源協会)

エコマーク
(日本環境協会)

再生紙使用マーク
(3R 活動推進フォーラム)

ソイインク使用マーク
(アメリカ大豆協会)



バイオマスを広める活動に参加しませんか？

KBF ではバイオマスで地域循環型社会を実現するために活動しています。私たちをサポートしていただける個人・団体会員を募集中です。

- 正会員・・・・・・・・・・1口 ¥12,000
- 個人賛助会員・・・・・・・・1口 ¥3,000
- 団体賛助会員・・・・・・・・1口 ¥20,000
- 学生ボランティア会員・・・・・・ 無料

入会ご希望の方は九州バイオマスフォーラム事務局までお問い合わせ下さい。
事務局 電話：0967-35-1128 メール：kbf@aso.ne.jp

編集後記

◆慣れないワードでの編集作業でしたので、読みにくい点があるかと思いますが、ご容赦下さい。六ヶ所村の再処理工場が動き出そうとしていますが、もっとバイオマスエネルギーが社会に浸透していけばなあと感じます。阿蘇に目を移せば、牧野で出会う組合員さんが将来喜べるような仕組みが構築できればと思って牧野に出かけたりしています。(井芹)

◆初めまして。5月から採用になった佐藤です。バイオマスは面白いけど、とても難しいです。始めの頃は、難しすぎて耳鳴りがしましたが、今はだんだん慣れてきました。これからも、宜しくお願いします。(佐藤)